

プラザホテル運営体制等について報告
―常議員会・議員総会を開催―

12月16日、令和2年度第3回常議員会、並びに第174回臨時議員総会を開催しました。

釜谷会頭は挨拶で、コロナウイルス感染症の第3波が当地域でも拡大し、Go Toトラベルの中断をはじめ、イベント等が軒並み中止になっている。影響が長引き企業は非常に厳しい状況であり、当所としても経営相談など支援に引き続き注力していくと述べました。議題では、加古川プラザホテル後継運営者について、お問い合わせを頂いた20数社とは合意に至らず、最終的に宿泊とレストラン部門を(株)力ノコ、宴会部門をシンエーフーズ(株)が運営することに決定。既に12月から交代したと報告。会頭は地元企業2社協力して運営して頂きたい。3階部分の活用等はプラザホテル活用促進特別委員会のご意見も頂きながら、利用促進を図りたいと述べました。

「コロナ禍での採用形態どう変わる
―オンライン合同企業説明会を開催―

12月22日「オンライン企業説明会inかこがわ」がZoomを活用してオンライン上で開催されました。



準備万端で説明を開始しました

オンライン企業説明会は、新型コロナウイルスの影響や就職活動の多様化により今後ニーズが増える予想されており、企業にとってメリットも多く、双方にとって効率の良い就職活動ができるようになるので注目されています。

9企業が参加し各20分間ずつ企業説明を行い、企業も学生も慣れないなかでしたが、順調に進みました。自宅から参加できたり、説明会の後、チャットで質問ができたりと、求職者側も参加しやすく、多くの学生が参加しました。参加企業は「初めての試みで、手探りの状態でしたが、今後さらに精度をあげて良い情報を発信したい」と意気込みました。

女性会

女性会「加古川プラザホテル・東京田村」を応援

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、女性会の活動も大きく制約を受けることになり、親睦目的のバス旅行や懇親会などは実施できませんでした。そのため1月には会員に加古川プラザホテル・東京田村の施設利用券として会費の一部を還元しました。同ホテルは当女性会の設立以来、大変関わりの深い施設で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大変厳しい状況と伺っています。昨年12月には運営会社も代わったこともあり、女性会としても何らかのかたちで応援したいと考え、3月下旬まで有効の1階レストランと4階東京田村で利用できるお食事券を会員に配布しました。



2月度の役員会は緊急事態宣言が再発出されたことをうけ、初めてのオンライン開催を予定しています。昨年9月に『“zoom”体験&活用セミナー』を開催して勉強したことが大いに役立つことを期待しています。明けない夜はありません。女性会一同、コロナ禍を乗り越えて更なる飛躍の年にしたいと考えております。

3,000円分還元しました。

(副会長 竹中 眞利子)

青年部

サプライズ花火も大成功
―県青連第7回会員大会を開催―

12月19日、兵庫県商工会議所青年部連合会第7回会員大会加古川大会が開催されました。県青連は加古川、高砂、加西、洲本、赤穂、相生、龍野、明石、三木の9つの商工会議所青年部からなる連合会で、輪番制で毎年、会員大会を開催しています。また会員大会を開催する主官地から県青連の会長を選出することになっており、本年度加古川商工会議所青年部からは岡本良太郎君を会長として輩出しました。

7回目となる加古川大会は、記念式典をアラバスクホールにて開催し、岡田市長をはじめ、伊藤県民局長、釜谷会頭にもご出席いただき、滞りなく執り行われました。この日のためにみんなが知恵を出し合い、準備に取り組んできた中、コロナが勢いを増してきた中でも、何とか開催することができました。そのような状況の中、やっとの思いで開催でき、岡本会長の手によって入場する県連旗を見

て、こみ上げてくるものがありました。私は開会宣言を担当しましたが、岡本会長から『開会宣言に想いのすべてをぶつけてほしい』と言われていたので、直前まで練習し、思い切った宣言することができました。



多くの人の様々な思いの詰まった県連旗

記念式典では来賓の方々のご祝辞と主催者の挨拶、それから式典のメインイベントである、県連旗の引継ぎが行われました。来年度の主官地は赤穂になるので、加古川から赤穂へと高々と掲げられた県連旗が引き継がれました。そこから両荘河川敷グラウンドへと移動し、アントレプレナーズ事業として、ゴルゴ松本氏を講師に招いて『命の授業』の講演が行われました。漢字や言葉の成り立

ちから、人生のヒントを学ぶという講演で大人から子供まで内容のわかりやすい講演をいただきました。またゴルゴ松本氏はしきりにこちらに話しかけるようなスタイルで、途中笑いなども挟みながら、聞きやすくして頂いたと思います。命の授業で学んだことをこれからの人生や青年部での活動に活かしていけると思いました。

そして同会場にて大懇親会を行いました。コロナ禍での会食ありの懇親会ということで、対策できることは全部徹底的にやるう！と金田大会会長を筆頭にみんながあてもない、こうでもないと考えました。どうしても決まり事が多くなってしまう、来ていただいた方にはご不便をおかけしたとは思いますが、この大会での感染者は確認されておりませんので、皆様のご協力のおかげで、私たちの感染対策は成功したと思っております。そして懇親会の最後に、サプライズで75発の花火を打ち上げました。来ていただいた方へのお礼、準備を頑張ったメンバーへのお礼、いつもお世話になっている地域の



無事に加古川大会をやりきることができました！

方々へのお礼、そしてコロナと戦うすべての人々へのお礼とエールを込めた、兵庫県と加古川の未来への希望の75発でした。この大会で得たものを地域のために活かせるよう青年部一同これから邁進してまいります。大会へご参加、ご登録、ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。

(加古川大会実行委員長 竹内一真)